

肉類アレルギーの治療中に

昨年7月に、肉類アレルギーの急増について、この欄でご報告しました。その後も肉類アレルギーの増加は続いています。肉類アレルギーの方は、鶏肉、牛肉、豚肉、全てにアレルギーの方がほとんどで、鶏肉だけ、牛肉だけのアレルギーとか、豚肉は食べられる、とかは少数派なのです。また年齢にも関係なく、母乳だけの赤ちゃんが、母親の食べた肉類により母乳を通じて、肉類アレルギーを起し、痒みや湿疹を引き起こしていますし、50歳以上の方で今まで肉類アレルギーなんて無かった方にも、多発しています。

治りにくいアレルギーのトラブルを抱えておいでになる方には、それまでのアレルゲンのチェックだけでなく、肉類もアレルゲンになっていないか、再チェックをしています。その中で、肉類アレルギーが判明した方に、食生活をお聞きすると、「そういや、肉の量が増えていたな〜」と言われることが多いです。本当に人の健康を考えての情報ではなく、売らほうの都合で情報が出されていますが、それらの影響と、手軽さ、安価さ（野菜が高価すぎるのも、問題）も、肉質の悪化とともに肉類アレルギー増加の原因と考えられます。

治療は、肉食を止めることですが、中には量を減らすだけで治る、ラッキーな方もおいでになります。完全に止めないと良くならない方が多いのですが、非常に敏感な方の中には驚くようなことが原因で治らないことがあります。

2歳の男の子は肉類アレルギーの強いかゆみを伴う皮疹が出ていました。家庭では、大人もみんな、穀類、野菜中心で、肉類はだしも含めて、全く使ってない、と言われます。でも、何度チェックしても、牛肉と皮疹が共鳴するのです。「いや・・・何ととっても牛肉の反応なのですけどね・・・。」「だし類も含めて、再度見直してください。」と、私。しばらくして、お母さんが、お子さんのお気に入りの太鼓をもって、診察においでになりました。「この太鼓、大好きで、毎日遊んでいたのですが、もしかして、これ？と思って、持ってきたのですが。」早速、調べてみますと、その太鼓と皮疹が共鳴します。牛皮で作られているのだということです。太鼓をしばらく封印してもらいました。中学生のパーカッション担当の方にも牛肉アレルギーの症状が手などに出ていました。接触により悪化するとしたら、靴や鞆、コート、その他の持ち物なども注意したほうが良いということですね。記憶に新しいところでは、茶のしずく石鹸があります。添加物に小麦の加水分解物・グルパール 19S が使われていたため、小麦アレルギーの無い人々に、小麦アレルギーを引き起こし、アナフィラキシーショックが大問題となり、回収される事件がありました。口から入るほうが、皮膚から侵入するより安全なのです。もちろん安全な量でなければなりません。

安全に食べられるようになるには、肉類も経口免疫療法を行います。大量には食べなくても、だしや、わずかの量が食べられるなら、食生活が随分と楽になりますので、ご希望の方はどうぞ、ご相談ください。